



中筋小学校だより

校訓 ～ 強身体 正しい心 ～

舞鶴市立中筋小学校
学校だより 7月号
令和5年6月30日発行
<http://nakasuji.maizuru.edumap.jp/>
☎ 75-0372

150周年に立ち会えること

今年、本校は150年目を迎えました。いろいろな場面で「150周年」ということを言わせていただいているのですが、よくよく考えると、この令和5年に中筋小学校の職員であったことは、一つの「奇跡」かもしれません。

150年前学校が誕生した時代背景を少し振り返ります。1872年（明治5年）日本の近代化を推し進める改革の一つとしての「学制」の公布が始まりです。江戸時代にも「寺子屋」や「私塾」といった教育機関はありました。その頃の日本の識字率は世界最高水準であったと言われています。それが明治以降の近代化を支える土台となりました。「学制」では、『誰もが教育を受けることができる』『教育によって立身出世を望むことができる』ということを大きく打ち出しました。もう一つの側面には、近代的な兵隊を作る際に大きな障害となる各地方の方言ではなく、兵の統率のための共通言語（標準語）を学ばせるという意図もありました。学制が公布された当時、全国には53,000位の小学校があったそうです。つまり、全国で昨年か今年に150周年を迎えている学校が5万校以上あるということです。（少子化による統廃合により、数はもっと少なくなっていると思います。）

学制の制度や内容は、フランスやアメリカを見本として作られていきました。その中では、特に小学校教育が重視されました。満6歳になった男女すべてを学校に通わせることが義務となり、全国各地に小学校が造られていったわけです。しかし、授業料や学校建築費はすべて家庭や地元負担でした。農家の働き手や地元の財政を圧迫するということもあり、人々の不満は大きかったようですが、当時の中筋村では、人々の思いや協力によって、中筋小学校が建築されたことに深く敬意を表さなければなりません。

そうして、150年経った現在、663名の児童と49名の教職員がこの中筋小学校で出会い、150周年を迎えることは「奇跡」です。1年でも「この出会い」がずれていたら、この機会に立ち会うことはできませんでした。そのように考えると「一期一会」という言葉がより実感として胸に刺さります。一生で一度きりの機会や出会いだからこそ、その時の相手を思う気持ちやかかわり方を大事にしていこうということです。「一期：一生で一度しかない」「一会：一度の出会い」という意味から、150周年の歴史を振り返るばかりではなく、これからの時代を生きる子どもたちに、生きる上で大切にしてほしいことも学べる機会になればと考えます。これから数多くある「人との出会い」。その出会いは、遠い将来だけではなく、明日出会う同じ学級の仲間との出会いも「一期一会」ととらえれば、昨日とは違うやさしさや思いやりも生まれてくるのではないのでしょうか。150周年は、「人の出会い」について考えることができた貴重な機会にもなりました。

さて、明日から7月です。明日は6年生の児童が舞鶴市の陸上大会に出場します。今年度は、1日開催で東西併せての形で開催されます。1か月以上頑張ってきた成果を十二分に発揮することを期待します。7月は1学期のまとめの時期です。暑さに負けず子どもたちが精一杯がんばり、さらに力を伸ばしているよう終業式の日までしっかり取り組んでまいります。地域の皆様、保護者の皆様のご協力・ご支援をよろしく願いいたします。

校長 亀井 敬介
教職員 一同

創立150周年記念式典が盛大に開催されました。

6月25日（日）に、舞鶴市長様をはじめ多くのご来賓の皆様、そして地域の皆様にご臨席を賜り、記念式典を開催いたしました。サウンドハーモニーの演奏で始まり、市長様のご祝辞、記念事業委員会様より記念品目録の贈呈、児童代表の謝辞等、厳かな雰囲気の中で式典が滞りなく進みました。

式典後は、児童発表に移り、各学年が150周年をお祝いする発表を行いました。どの学年も、中筋小の150才をお祝いする気持ちが込められた素敵な発表でした。

最後は、50年前の100周年時の児童会長だった方から、現在の子どもたちに向けて、メッセージとエールをいただきました。

素晴らしいお祝いの会ができましたことに、関係各位の皆様には厚くお礼申し上げます。本当にありがとうございました。

